

失敗体験の意味付け変容のプロセスに関する研究

—教師の失敗体験の語りから—

立命館大学大学院応用人間科学研究科

対人援助学領域 人間形成・臨床教育クラスター

内田 一樹

人がある体験をしたときに、その体験を失敗体験とするか成功体験とするかは非常に主観的な意味づけに基づくものである。しかし、失敗体験の意味づけがどのように変化するか、という先行研究は少ない。また、失敗体験について日常的に接する職業として教師があげられる。自分の失敗体験だけではなく、生徒の失敗体験に対しても日常的に接するからである。そこで、本研究の目的は、教師が自らの失敗体験に対してどのような意味づけの変容プロセスをするのかを明らかにすることである。

本研究では、教師を対象に半構造化面接を実施し、そこから得られた逐語録のデータに対して、修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いて分析を行った。本調査は教師 9 名を対象に実施し、教員歴によって 3 つのグループに分け、分析を行った。

本調査の結果、失敗体験の意味づけの変容プロセスについて、ある体験に対して新しい意味づけが付け加わっていくプロセスであることが明らかになった。またプロセスの変化は、教師として生徒とかかわることによって起こる。また逐語録のデータから、失敗体験を通して教師が自己を語っていることも明らかになった。

本研究を通して、教師の失敗体験の意味づけの変容プロセスが明らかになった。失敗体験の意味付けの変容は、失敗体験を語ることとそれを誰かが共感的に聞くことの中で生じることが示唆された。